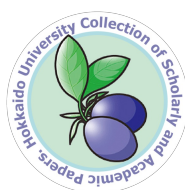




Title	北海道, 東京, NY の生活から得た学びとこれからの生き方
Author(s)	保田, 優衣; YASUDA, Yui
Description	講演
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 12, 13-18
Issue Date	2023-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/89049
Type	departmental bulletin paper
File Information	REBN_12_013.pdf



<講演 演>

北海道，東京，NY の生活から得た学びと これからの生き方

保田 優衣
フリーランス

よろしくお願いします。保田優衣と申します。

今ご紹介いただきましたようにアメリカにおりまして、遠隔での講演とさせていただきます。多分1, 2秒タイムラグがあると思うので、双方歩調を取りながらやっていきたいと思っています。

私は大学卒業まで北海道で生まれ育ち、その後、就職を機に東京そしてニューヨークを行き来しながら生活をしておりまして、去年、札幌に居を移し、今フリーランスとして働いております。このように拠点を変遷して、後で少しお話ししますが勉強と仕事を行き来しながら暮らしてきました。そういった中から得た学びと、これからどうしていきたいかということをお話できればと思っています。

本日は以下の4点でお話ししたいと思っています。今日お集まりのみなさまは若い方だと学生さんから、かなり幅広い世代の方にご参加いただいていると聞いていましたので、今言ったような拠点、仕事と勉強の行き来みたいなところの紹介と、それを踏まえてフリーランスとして今どういった仕事をしているのか、札幌にいながらフリーランスでどういった働き方をしているのかということをお話させていただきます。後半は、このような動きから自分なりにどういったことを学び糧にしてきたかということをお話し

して、最後に「これから」というところで締めくくりたいと思っています。

では、一つ目のアジェンダからお話したいと思います。

文字に落とすとかなり分かりづらいので、簡単な時系列のアニメーションにしてみました(図1)。

私は今37歳で、北海道の旭川で生まれ、大学は北大の経済学部経営学科、今日コーディネーターをしていただいているセンター長の平本健太先生のゼミを卒業しています。

20代の頃はずっとファッション業界におりまして、大学を卒業して、服が好きという点のみでアパレル業界に就職を決めて、バーニーズニューヨークという東京のセレクトショップの販売の仕事を最初に行っていました。

20代の頃の私は、とにかくファッション業界で世界をまたにかけて働きたいとか、買い付けの仕事をしたいとか、そういう思いが強く、販売の仕事をしながら、どうしたらそこにう

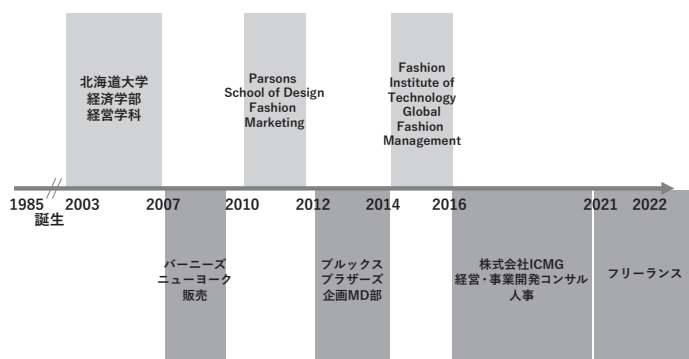


図1

まくリーチできるかというようなことを考えていました。正直、販売実績が群を抜いているタイプではなかったのですが、他の人とちょっと差別化が計れる何かいい近道がないかと考えていました。その当時は服がただ好きというだけだったので、少し専門知識をつけたいし、世界のファッションの最先端で学びたいという思いが強くなりニューヨークに留学を決めました。

最初に行った先がパーソンズ大学（Parsons School of Design）というニューヨークにあるファッションのプログラムがある結構大きな大学で、そこで1年半勉強しながら世界各国から来ている方々と切磋琢磨したり現地でインターンをしたりして、帰国しました。

そして、20代後半でブルックスブラザーズというブランドの企画MD部で日本の店舗向けの買い付け全般の仕事に就くことができました。これは、先ほど言ったバイヤーの仕事をしたという一つの夢が叶ったのですが、やっていくうちに、一つの会社、一つの部署でできることももちろんたくさんあるのですが、もう少し会社とか業界に影響がある仕事をしたいという思いがふつふつと湧くようになりました。そのタイミングで、ニューヨークのもう一つの大きなファッションの大学であるファッション工科大学（Fashion Institute of Technology：FIT）の大学院にオファーをいただく機会がありました。

その大学院ではグローバルファッションマネジメントという経営もしくは管理職を業界で目指す人の育成のコースだったので、夢に近いのではないかと改めて再度留学を決めました。30歳前後でした。そこではファッション業界の女性活躍推進のような研究なども行いました。帰国をして、大学院の学びを活かし、物事を俯瞰して業界などに大きな影響を与えられるような仕事をしたいという思いで、ファッションにこだわり過ぎずに転職を見据えた結果、経営とか事業開発コンサルをやっているICMG¹⁾という会社にご縁をいただいて5年間働きました。

最後の1年は人事の仕事も兼務させていただいて、2021年の頭に札幌にUターンをして、フリーランスで今に至るという状況になっております。

今お話をしたようにフリーランスになったわけですが、ではどういった仕事をしているのか、簡単にご紹介させていただきます。

コンサルという仕事柄、守秘義務もあるのですが、なかなかお伝えできないことも多いのですが、今日は可能なお話をいくつかしたいと思います。

今、札幌に住んでいますが、実は7割方東京の仕事をしていて、残りは北海道の仕事をしているという状況です。

北海道の仕事の紹介からいくと、一つ目は、Basho Tripさんという北海道の観光アクティビティの紹介会社の顧客対応、経営のアドバイザリーと、図2にあるように、私は道産子なので北海道の記事の執筆などをおこなっています。次に、札幌にお住まいの方は見たことがあると思うのですが、札幌駅南口を出て時計台の通りにガラス張りのビルがあって、そこに本棚がずらっとある「pool（プール）」というワーキングカフェが去年オープンしたのですが、その経営のアドバイザリーをしていた関係で、このカフェの立ち上げのときにオリジナルグッズの企画監修と、1,500冊ぐらいある本の選書、ディスプレイ、特集企画とかポップを書くような仕事をさせていただいたりもしています。

東京の会社の例でいうと、東京電力さんの関係会社で電力以外の新サービスを開発する会社TEPCO i-フロンティアズというところの案件を幾つかお手伝いしていて、一つお伝えできる例としては、11月1日に「マネのぼ」というお金について学ぶサイトをオープンする中で、サイトのコンセプト設計とか記事全体の監修などをさせていただきました。

1) コンサルティング企業。Webサイト <https://www.icmg.co.jp/>



図 2

こんな感じで北海道、東京で、アパレルっぽい仕事もあれば、記事執筆、コンサルティングみたいな感じの仕事もしています。

いろいろやっているということは何となく把握いただいたと思いますので、今日のテーマにもひもづく、札幌にいながらどうやってフリーランスをやっているのかということで、働き方についてある1日の例でお伝えしたいと思います。例えば午前中に、前述したように Basho Trip さんのような仕事を自宅で行います。札幌の会社ですが、作業は自宅で行うことが多くて、顧客対応とか記事執筆などを行います。例えばお客様とかアクティビティのガイド様とは電話や LINE で、記事執筆はパソコンを使って一人という形の仕事です。午後は TEPCO i-フロンティアズさんの仕事を、これは東京の会社なのでフルリモートで自宅から行います。ここのミーティングや資料作成に関してはツ

ルががらっと変わり、zoom とか、あと Slack というビジネスコミュニケーションツールを使います。(業界によって、よく使っている方と全く使ったことがない方に二分されるツールですが、分かりやすく言うと、このアプリは、コミュニケーションが取りやすいツールで、1対1のチャットもできれば、プロジェクトとか会社の部署とか複数人数で小部屋みたいなのが作ることができ、そこでチャットをしたり、あと資料の共有を行ったりできるものです) Slack では東京の会社であっても対面で仕事をしている感覚になるぐらい、タイムラグがないコミュニケーションを取ることができます。こういうツールを使って仕事をしています。

夕方になると、札幌の先ほどお話したカフェ「pool」に行き、実際の現場で本棚の調整とか発注をしたり、カフェや会社のスタッフとミーティングを対面で行ったりします。それで、体力が残っていればちょっと勉強をしたりというのが、ある1日の流れという形になります。このような感じで今仕事をさせてもらっています。

ではこれまでの経験でどういったことを自分の糧にしてきたか、簡単にお話をさせていただきます。

まず、アクションベースなのですが、先ほど自己紹介でお話をしたように、北大を出てから最初はファッション業界で仕事をして、勉強をして、仕事をして、そしてまた勉強をして、それで女性活躍推進のような研究をしたと言ったと思うのですが、一応本を出すまでに至りました。そこまでの流れが、うっすらですけれども自分なりにちょっとずつ繋がってきて、結果ファッション業界から今度はコンサルへの異業種転職という道を歩きました。これは、大学院のときに培った俯瞰する力とか、マーケティングも学んだので分析力なども生かしつつ、コンサルをやりながら人とお話することで培った経営視点を活用しながら人事の仕事に軸足を移し、ファッション、コンサル、人事と

いった様々な経験と視点を生かし、今フリーランスという仕事に行き着いているところです。

今後、心理もちょっとやっていきたいという気持ちもあります。自分なりに思うことは、先ほどの斎藤さんのお話にも繋がるなと思って聞いていましたが、一昔前だと今の私のプロフィールはジョブホッパーと言われ、ころころ仕事を変えていて、正直あまりよいイメージを持たれなかったのではないかと思います。しかし、変えるときに次に経験を生かすということを意識して動くということを自分なりにやってきたことが、今アニメーションで映したように(図3)気づけば面になって、自分が動ける足元を広げてこられたのではないかと考えています。それがたまたま今フリーランスという働き方にすごく生かしているのかな、というのがまず一つ目、自分なりに糧にしていることになりました。

そして、次は拠点の視点でいくと、北海道、東京、ニューヨークを行き来してきましたが、私は北海道が大好きで、東京にしようがニューヨークにしようが絶対年に数回は北海道に帰っているぐらい好きです。そこで、自分なりにそれぞれの拠点の好きなところを○、△、×で示してみました(図4)ところ、北海道は、今お話ししたように私にとって体にもメンタルにもよく、住みやすさみたいなところは断トツで○です。

一方で、東京やニューヨークは刺激もあるし、やはりファッションとかコンサルの業種でいくと選択肢の幅も北海道より正直広いです。ただ、ちょっと前までは住まいと仕事が接続していないといけないというか、そ

れが当たり前だったので、そのときの自分の一番のプライオリティで住まいも選ばなければいけなかったようなところがありました。

北海道は大好きですが、仕事やキャリアを考えるとなかなか北海道を拠点にすることに踏み切れないというのがずっと続いていました。ただ、コロナの流行によって、今はリモートワークとか在宅とかワーケーションが普及してきたように、住まいと仕事が多様化したといえますか、必ずしも同じ場所で一つの仕事をしなければいけないという時代ではなくなってきました。「ふくぎょう」(二つの意味での副業／複業がありますけれども)というものも少しずつ認められる社会に変わってきたかなという感覚を持っています。これが今後広がっていくと各拠点のいいところ取りがもっとできるようになるの



図3

		HOKKAIDO	TOKYO	NEWYORK
健康	身体面	○	▲	▲
	精神面	○	△	▲
住生活	空間	○	▲	△
	物価	○	×	×
仕事	選択肢	△	○	▲
	刺激・成長可能性	△	◎	◎
その他	表現の自由度	▲	○	◎

図4

ではないかと思っています。図4の項目全部を「◎」や「○」にできるという新たな選択肢が生まれるのではないかという気がしています。

もちろん、家族のこと、子どものこと、介護のこと、人にはいろいろな事情がありますので、そこはもちろん一筋縄ではいかない部分もありますが、私個人としては、心身が最も安定というか、リラックスできる北海道という地域に住みながら、東京を中心とする複数業界拠点の仕事をを行うようなハイブリッドな形が今後広がっていくのではないかと思っています。自分自身がこれまでの経験を通してそういった生き方を選んでいけると言えるのではないかと思っています。

最後に、今までのお話や経験を踏まえて今後どうしていきたいかというようなことをお話し締めくくりたいと思います。大きく4点あります。

まず1点目が、動きのある生活を続けるということです。これは、先ほどもお話ししたように、ただ物理的に動いたり、あれこれやればよいというわけではありません。今、一寸先は闇ではないですけど、VUCA²⁾、不透明・不安定な世の中と言われる中で、コロナの流行ももちろんそうですが、そうした環境変化にしなやかに対応できる心の持ち方ですとか、もちろんスキルのようなものは業種を問わずどんどん必要になってくると思っています。なので、こういった動きのある生活に体が慣れていくという

ことは自然とそういうスキルやマインドが身についていくのではないかということで、続けていきたいことの一つになります。

2点目が、いろいろな文化の人との仕事を今後もしていきたいということです。文化というと国の違いみたいなイメージはありますが、さっき桜木さんから、同じ日本でも北海道と内地では何か価値観が違うというお話があったと思います。一人一人文化というか背景が違うわけなので、よりいろんなバックグラウンドの人、いろんな業種の人と仕事をしていくことで視野が狭くならないように、拡張し続けられる環境を選んでいきたいということが二つ目になります。

3点目は、心理学のインプットということです。先ほど少し勉強をしていますと言いましたが、人事とか経営コンサルというのは対人の仕事なので、心理学の知識がコミュニケーションとか相手に寄り添って考えるときに役立つのではないかと思うのです。それと、私自身、北海道に心身が癒やされていると言ったように、やはりセルフメンテナンスみたいなのは自分の中で今後伸ばしていきたいところなのです。心理学を学ぶことは仕事にも自分自身の成長とかメンテナンスにも生かせるのではないかと考え、これからやっていきたいことの一つです。

最後になりますが、北海道+αの拠点探しということで、今日ご紹介したのは北海道に身を置きながら複数の拠点、複数の業界の仕事をしていますというお話でした。突き詰めていくと、別に住まいも一つである必要は正直ありません。先ほどの斎藤さんのお話にもあったように、行き来したり、よりいいとこ取りをし得る可能性があるのではないかと考えており、数を増やせばいいというわけではないですが、自分なりによりよい生き方や働き方を模索していきたい、ということが今の私の目標になっております。

北海道のよさとか、そういったことはこの後のパネルディスカッションでも少し経験を踏ま

2) Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguityの頭文字を取った造語で、社会やビジネスにとって、未来の予測が難しくなる状況のことを意味する。中略 元々アメリカで使われていた軍事用語で、1990年代にアメリカとロシアが対戦していた冷戦が終結し、核兵器ありきだった戦略が不透明な戦略へと変わったことを表している言葉だった。その後、2010年代に変化が激しい世界情勢を表す言葉としてビジネスでも利用されるようになった。(i-Learningより <https://www.i-learning.jp/topics/column/business/vuca-era.html>)

えてお話できたと思っています。私の講演は
以上とさせていただきます。駆け足になってし

まった部分もありますが、ご清聴ありがとうございます
ございました。(拍手)